奈良県　王寺町議会

（事績１）政策づくりと監視機能を十分発揮している議会

【王寺町議会の構成】

現在の町議会の議員定数は１２名である。議会体制は常任委員会として総務文教常任委員会（６名）とくらし環境常任委員会（５名）があり、議会運営委員会（６名）と全議員による義務教育学校特別委員会、議会改革特別委員会となっている。また、議案の審査又は議会の運営に関し協議又は調整を行うための場として必要に応じて全員協議会を開催している。

本年は本町を含む４町で構成する北葛城郡町村議会議長会と、本町含む７町で構成する王寺周辺広域市町村圏議長会の会長町として、研修の企画や広域にわたる課題の話し合いを積極的に行い、近隣議会との連携を図ると共に議会活動の充実に努めている。

【義務教育学校の設置検討調査研究特別委員会】

平成２８年度に町から議会に対し、義務教育学校（小中一貫教育）開校に向けた提案があったことから、平成２９年３月、全議員で構成する「義務教育学校の設置検討調査研究特別委員会」を設置した。学校施設の約７割が建築後４０年を超えるなど老朽化している現状を考慮しながら、町の今後の義務教育の在り方について議論を重ねるもので、令和４年４月の義務教育学校開校までに２３回の委員会を開催した。

委員会では外部有識者を招いた講習会や先進校７校への視察、基本方針や計画案に対し、施設整備やＧＩＧＡスクール構想、王寺ならではの特色ある９年間を通したカリキュラムに教職員の配置、通学路等、ハードソフト両面への進言を行った。

また視察や講習会、委員会で得た情報や知見を、議会報告会を開催して住民に報告・意見交換会を重ね、いただいた貴重な声の数々をもとに行政に働きかけ続けた。

これらの経緯を経て、開校後も「義務教育学校特別委員会」と名称を変更して８回開催しており、現場視察を行いながら教職員、児童生徒の声を聴いている。

町は特色ある教育活動を、移住定住、暮らし満足度向上の大きな柱として掲げており、議会としても地域活性化の核として、義務教育学校をおおいに活用していくことを求めている。

（事績２）住民に開かれた議会

【議会広報の改善による住民の行動変容】

令和５年４月の改選を機に読まれない議会だよりをリニューアルし、初出場した広報コンクールで全国10位に選ばれた。また紙媒体×LINEによるクロスメディアによる発信で、本会議視聴数は年間４倍となり、住民の行動変容につながった。リニューアル後は議員が取材を行い、住民の声を聴いている。また閉じたSNSではなく、オープンな発信となる公式note の運用や、地域におもむく意見交換会の始動など、王寺町議会は広報の改善からつながった議会改革への道を歩んでいる。そのねらいと効果を紹介する。

令和５年４月の改選後、読まれない議会広報紙に課題を感じていた議員と、同時期に町の広報担当課から議会事務局へ出向した職員が話し合い、全面リニューアルに向けた土台づくりを行った。まず、ユニバーサルデザインのスキルを持つ職員が各ページの課題を抽出し、仮デザインを作成。議会広報編集委員会で共有し、下記の編集方針（抜粋）定めた。

コンセプト「あなたと議会をつなぐガイドブック」

❶町民の参加…住民が登場する紙面へ。WEBアンケートを常設し、常に住民の意見を聴き柔軟に改善できる導線を整備

❷脱・報告書…すべての審議結果を網羅せず、住民の関心が高い記事を優先順位・メリハリをつけて掲載

❸読みやすいレイアウト…ユニバーサルデザインの考え方を紙面に落とし込む構成へ

❹文字を少なく写真を多く…読み手を第一に考え、記事は簡潔でやわらかい表現に

堅い議会のイメージから、読み手の心理的ハードルを低くすることを心掛け、カジュアルなデザイン、雑誌のような特集、余白やあしらいを整え、誰もが読みやすいユニバーサルデザインの考えに基づいた編集を行うものだ。この方針を議会・行政双方の合意形成のもと、リニューアルに向けて動き出した。

これまで審議結果の掲載が中心で特集記事はなかったが、リニューアル後は特集を常設した。初回特集は「議会ってなんだ？」と題し、議会・行政・住民の関係や議会の意義・ながれ等、基本をあらためて解説するものだ。また特集のまとめでは、住民モニターに紙面を読んでもらい、その感想を掲載するとともにリニューアルに込めた町議会の思いを熱く掲載した。住民の声とともに届けたメッセージだからこそ、発行後はアンケートや道行く人の

声、SNS 上で、下記のように好意的な反響（抜粋）が多く寄せられた。

（住民の声）※リニューアルを歓迎しない声はゼロ
●情報が見つけやすくなり、目にも優しく何度も開いて読みたくなる。大英断に感謝。
●議会だよりとは思えないほど親しみやすくなった。町民に寄り添った取組が素晴らしい。
●初歩的だが全く知らないことなので、特集で議会の流れを知れてよかった。
●正直、議員が何をしているのか興味がなかったが、今後の動きが知りたくなった。
●以前は難しく見慣れない単語が多く、文字ばかりぎっしりで、新聞みたいに冗長な印象で読みにくかった。今号はユーザーフレンドリーな印象を受け、ぐっと読みやすくなった。

数多くの住民からの評価に続き、対外的な評価が寄せられた。

●「月刊地方議会人」での広報コラムでの事例紹介（令和 5 年 10 月号・11 月号、令和 6 年 5 月号）
●全国の行政広報担当が購読する「月刊広報」において、4 ページにわたるリニューアル解説記事を寄稿（令和 6 年 7 月号）
●毎日新聞社主催「第 35 回近畿市町村広報紙コンクール」…初出場で奨励賞受賞（令和 5 年 11 月）
●全国町村議会議長会主催「第 38 回広報コンクール」…初出場で全国 10 位入賞／奈良県初（令和 6 年 2 月）
●議会広報に関する行政視察の受入…令和 6 年 10 月末までで 16 件／11 月以降も 7 件の申込
●日本最大の政策コンテストである「第 19 回マニフェスト大賞」において、3,014 件の取り組みの中から優秀賞（41 件）を受賞。テーマ：「広報の改善からはじまった議会改革への道‐住民・議員の行動変容‐」（令和 6 年 10 月）

【議員取材の積み重ねで実現した子どもと地域の関係特集】
　リニューアル以降、紙面に掲載する住民への取材は議員と職員が行っており、直近で発行した号は２２人の住民の声を掲載した。
　特集は「地域で子どもは育つのか」と題し、毎年議場で開催される「子ども一日町長」に参加した子どもらが何故、シビックプライド（まちへの愛着）を持っているのか。先人から受け継がれてきた、まちを愛する大人たちが地域活動を通して子どもたちと関わっている

からだと位置づけ、活動者を紹介するとともに、議会でできること、これから行うこと（次セクションで解説）を紹介し、「住民とともに王寺町議会は進んでいく」というメッセージを込めたものだ。

さらにページ下には毎号、アンケートで寄せられた素朴な質問に議員が答えるコメント欄を整備しており、子ども特集に合わせて、議員の子どもの頃の思い出を掲載した。このコーナーは住民から人気があり、議員のひととなりが知れるコンテンツとして、全ページに目を通す導線として機能している。

【意見交換会制度の開始と議員の行動変容】

これまで、住民の声を聴く大きな機会は年に一度の議会報告会が主だったが、リニューアル後は議員と職員が住民の声を取材しており、さらに多くの意見を伺おうと、住民がテーマを決めて議員が地域におもむく意見交換会制度がはじまった。そこで得たニーズから議員間討議、政策提案まで行おうと、全員協議会で協議を重ねており、議会全体の改革に踏み出している。また、あらたな広報手段としてメディアプラットフォーム「note」での発信を開始した。議会広報紙の発行は時間がかかり情報の鮮度が落ちることから、タイムリーな媒体として用いるものである。閲覧にアカウントやフォローが必要な、住民が情報を取得するまでのハードルが高い SNS ではなく、記事自体が検索エンジンにヒットし、オープンに閲覧できる note を活用し、より開かれた議会の「見える化」を加速している。

【議場コンサート】

令和２年以降、６月議会と１２月議会において、議場を開かれた場にするとともに、本会議への関心を持ってもらうため、地域で音楽活動を行う団体を招き、本会議前に議場でコンサートを開催している。インターネットでも中継しており、本会議視聴への導線確保と、地域住民の発表の場として機能している。

（事績３）議員のなり手不足に真摯に向き合いその対策を講じている議会

【議会報告会】

平成２８年以降、王寺町議会基本条例にのっとり議会報告会を開催し、議会や町の重要施策の解説・報告およびグループディスカッションを行っている。

議会基本条例の説明や子育て支援、防災など毎回テーマを変え、令和３年・４年はコロナ

過によりオンラインで実施した。令和５年の実施回では、町が重要施策として進めている「まちづくり協議会（あらたな地域参画の仕組みとして全国的に注目されている）」について、事前に先進地への視察研修や、有識者を招いた議員研修会で見識を深め、住民に向けて解説し、話し合った。

ディスカッションやアンケートで寄せられた意見は、議員のみならず行政にも共有し、議会・行政双方の見解を述べた回答書を町公式サイトで公開するとともに、「議会だより」でも紹介している。

【子ども議会】

平成２８年以降、中学生を対象にして夏休み期間に子ども議会を実施している。主権者教育の場となるよう、１０名前後の子ども議員から事前に提出された質問に対し、理事者は話し合いを重ね、開会日は本会議さながらの答弁を行っている。

子ども議員の質問がきっかけとなり、町の事業として執行された事例もある。奈良県と大阪府を結ぶ西の玄関口として、県内ＪＲ駅の中で最多の乗降客数を誇るＪＲ王寺駅や、町内の駅コンコースにおいて、突然の降雨に使用できるレンタル傘を設置した「思いやり置き傘」だ。令和元年の子ども議会で提案を受け、理事者側がＪＲ西日本と協議を重ね試験的に導入されたものだが、令和６年現在でも継続している事業となっている。

【本会議のインターネット中継・録画配信】

令和２年９月以降、本会議の様子をインターネット中継のほか、役場１階の大型モニタでも中継しており、議場に訪れずとも気軽に視聴できる機会を設けている。

これまで定例会や臨時会の案内は「議会だより」と「町広報紙」といった紙媒体を中心に行ってはいたものの、視聴数が芳しくなかったことから、「議会だより」のリニューアルと合わせて令和５年９月より、開会前と議会終了後の録画公開を行う際は、紙媒体と「町公式ＬＩＮＥ」のクロスメディアによる周知を行っている。クリックひとつで視聴サイトに誘導する手法により、令和５年９月定例会の本会議中継・録画視聴のアクセスユーザー数は、５倍以上（令和４年９月：294 件→令和５年９月：1,668 件）増加。その後も好調に推移し、年間で４倍以上の伸びをみせている。

「住民は議会や行政に関心がない」と言われるが、しっかりと住民の立場に沿った発信を行うことで認知され、参画の入り口に立ってもらうことで行動変容につながることが証明された。

現在は、より多くの住民に議員の役割や意義を知ってもらおうと、議会改革特別委員会において、「委員会中継・配信」の在り方や実施方法を検討している。